



開所日時 月～金曜日 15:00～18:00

土曜日 10:00～13:00

第 3 日曜日 10:00～13:00

児童デイ

ナントカ狩りゲーム

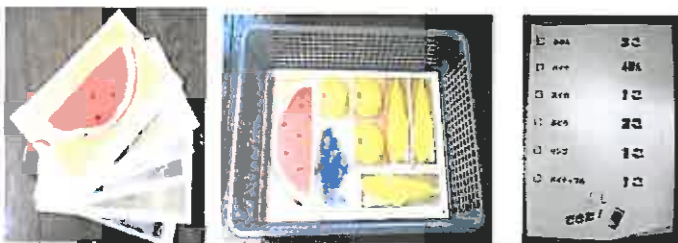
「自立」というけれど...

私たちは日々、子どもの自立に向けて支援をしています。これはまごころに限らず、多くの支援者が目標としているところであると思います。

ところで「自立」ってどういうことでしょうか？

いくら目標が達成できたとしても、職員の指示がなければできなかつたり、援助や手伝いが多すぎては「自分でできている」とはいえません。

「自分でわかってできる、ノーヒントでできることが増える」ことが大切だと考えます。また、「全部自分でできた！」ということは失敗体験の多い子たちにとって大きな自信となり、自発的な行動につながります。そのために高すぎる目標設定をせず、それぞれの特性に合わせた方法をとるようになっています。



同じ内容でもカード式、カゴ式、チェックリスト式などいろんな形態を使い分けます。

児童デイではほぼ毎月、「〇〇狩りゲーム」と称して(〇〇は果物や、野菜や、魚だったりします)、子どもが部屋に1人入って、指定した物を取ってくるという内容の活動をしています。うまく本人に合わせた支援ができていると、完璧に1人で目標を達成することができ、子どもも、スタッフもニコニコです。



「1人でできるもんね～」
スタッフは見るだけ...

工夫

▼脳梗塞で左マヒとなられたAさんは、以前のように家事をやりたいと思い、工夫しながらコツコツ努力を重ね、色々な事ができるようになっています。ご主人の入院をきっかけに、ゴミ出しを自分でしたいと思い、「ゴミ袋が結べない。」とヘルパーに話しかけられた事がきっかけで、ヘルパーがインターネットで検索して「片手でゴミ袋をしぼる」方法をAさんに紹介し、実行されています。

- ① ゴミ袋の片方の持ち手をドアノブに掛ける。
- ② 指を使ってもう一方の持ち手をドアノブに掛けた後ろ側を通します。
- ③ 指を使って後ろに通した持ち手を交差させます。
- ④ 最初とは反対側のゴミ袋の持ち手をドアノブに掛け直し下に引っ張る事で締め付ける。
- ⑤ 指を使ってもう一方の持ち手をドアノブに掛けた後ろ側を通します。
- ⑥ 指を使って後ろに通した持ち手を交差させます。これで、完了。

※持ち手の付いたゴミ袋は、百元ショップで販売しています。

▼他にも調理の時にまな板に釘を打って、それに材料を刺して切る等工夫されています。スピードも早く、手際も良い。今では、ヘルパーは見守っているだけで美味しい料理ができています。Aさんのひた向きの姿は、ヘルパーの励みでもあり、これからもAさんと一緒に目標を達成する過程を楽しみながら、支援させていただきたいと思っています。



ミニデイだよ!



柳緑花紅

今年の4月は毎日肌寒い日が続いて、デイサービスでもホットカーペットがなかなか手放せない日が続きました。

4月6日、お花見を兼ねて、まごころ前の九品寺公園で、テーブルを並べ、昼食に田楽を頂きました。この日はとても暖かく、ひらひらと舞う桜の下でみなさんの笑顔が絶えませんでした。炭で焼いた田楽は格別で、お腹いっぱい召し上がられました。

昼食後は桜の木の下に椅子を並べ、みなさんでしりとりをしたり、歌を歌ったり、写真を撮ったり・・・ゆったりとした時間が過ぎてゆきました。



4月20日、以前作っておいた押し花で飾り作りをしました。厚紙にピンセットとボンドで黙々と貼り付け、とても真剣な顔つきで行って見えました。出来上がった作品を並べ、最後はゲストも呼んで展覧会。「わー！すごくきれい！」という歓声に、みなさん「私が作ったの!」と誇らしげな様子でした。



心っれづれ



とっても元気なパートナー

支援者として、専門的な知識と技術はもとより、なによりも体力が必要だと痛感する今日この頃。

児童デイはもとより、余暇支援で長距離の散歩やプールにと、元気な子ども達と一緒に過ごすにはこちらでも元気でないといけません。

それに、子どもと関わらないときはほとんどパソコンに向かってデスクワークをしているので、むしろ運動不足気味なのです。そこで体力維持のために昨年からは時間のある時は登山をすることにしました。登るのは、もっぱら金華山の「馬の背登山道」。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、馬の背登山道は、体力に自信のある人向けの登山道です。登り口の説明板には「老人や幼児は絶対に無理です」と書かれている程の大変急峻な山道で、途中には断崖や難所が数多くあります。

初めて登った日は本当にしんどくて、チビッコやお年寄り、果ては犬にも追い抜かれ、悔しい想いをしました。(ちなみに翌々日は筋肉痛!)

悔しさをバネに挑戦を続け、肩で息をしなくても登れるようになったある秋の日、ふと登りたくなって夕暮れ時にも関わらず登山道に入りました。すると前に行くおばあちゃんに声をかけられ「私も馬の背行くんだけど、暗くなりそうで不安だから一緒に行きましょう。」とのこと。「こんな時間に登ろうとするなんてお互い変わってるね。」なんて話しながらも進むおばあちゃんはとても健脚で、ハードな坂道を割烹着にズック姿でスイスイと登って行くのです。お歳はなんと72歳。同じ山岳会には76歳の方もみえるのだとか。

結局下山もおばあちゃんと御一緒させていただき、無事に陽のあるうちに帰路につくことができました。「また縁があったら一緒しましょう!」そう言って颯爽と帰ってゆくおばあちゃんの背中を見て、「がんばらなくては!」と思った、元気なお年寄りから元気をもらった1日でした。

協力会員 神田 健司

